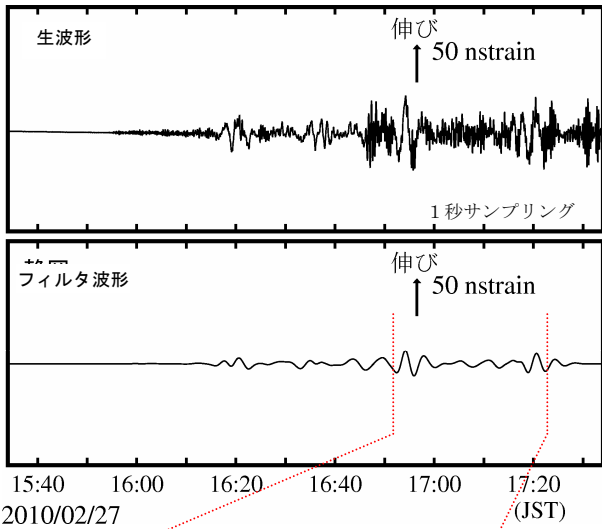


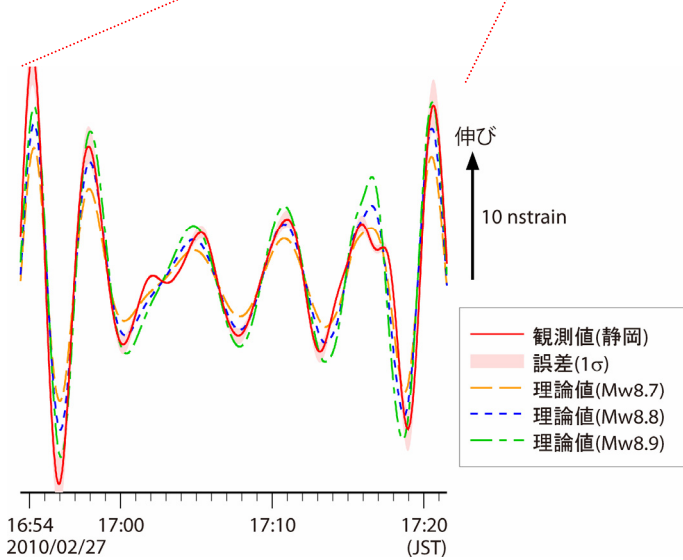
チリ中部沿岸の地震 体積歪計の記録から推定される Mw

静岡観測点で観測された体積歪波形

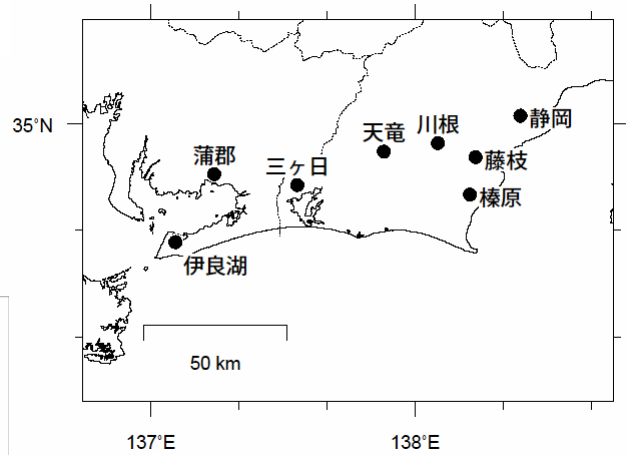


気象庁が東海地域に設置している埋込式体積歪計の今回の地震による波形記録と理論波形の振幅比較により、地震のモーメントマグニチュード (Mw) の推定を行った。

理論体積歪は気象庁 CMT 解を用い、一次元地球構造モデル PREM の固有モード周期 45 秒~3300 秒の重ね合わせにより計算した。その際に、スカラーモーメント量を Mw8.6 相当から 9.0 相当まで 0.1 刻みで変化させて、それぞれについて観測波形と比較した。体積歪計の観測波形と理論波形の振幅が最もよく整合するのは、Mw8.9 相当の場合であった。



体積歪計の配置図



静岡観測点の観測波形と理論波形の振幅比較 (左図) データには周期 200~1000 秒のバンドパスフィルタを時間軸の正逆両方向にかけている。網掛けは誤差 (1σ) の範囲を示す。

理論波形と体積歪観測点 8 カ所の観測波形との比較 データには周期 200~1000 秒のバンドパスフィルタを時間軸の正逆両方向にかけている。

